

【中学生議会 市長答弁様式1】安全・安心・快適なまち①

質問区分	中学生議会	議員名	いしい みお 議員 石井 滯 議員
発言順(通し番号)	NO: 4	所管課	危機管理課

質問事項	災害時への備えについて
具体的な内容 (質問取り事項)	防災パンフレットの作成と防災ポスターコンテストの開催 (消防・災害への備えに力を入れているが、実際に市民に広まっているとは言い難い。市民への呼びかけが不十分だと考え、提案します。)

【市長答弁】

いしい
石井議員のご質問にお答えします。

災害への備えについて、市民一人ひとりがさらに意識を高め、取り組んでいただくための働きかけについて、ご提案をいただきました。

私どもも議員同様に考え、市民の皆様には、「一人の命も失ってほしくない」と願い、市民一人ひとりが防災対策に取り組んでいただけるように、絶えず働きかけをさせていただいております。

広報誌による周知をはじめとして、地区の自主防災組織との連携や防災訓練の実施、地域における「災害への備え」などの講座開催、訓練等の助言を行い、市民の皆様に、「災害への備え」の重要性についてお伝えしております。

しかしながら、「災害に備える」という意識が浸透しているのか、全員が「準備をしているか」という点では、議員言われる通り、まだまだ、不十分かと感じております。

本市では、災害が少ないこともあって、どこかに、ここでは「災害は起きない」といった意識をお持ちなのかもしれません。

市民の皆さん全員に、危機感を持っていただけるように、今後も、市民のニーズにお応えして、いろいろな方法でお伝えしていこうと考えております。

【中学生議会 市長答弁様式1】安全・安心・快適なまち②

質問区分	中学生議会	議員名	よねくら 米倉 <small>はるか</small> 遥 議員
発言順(通し番号)	NO: 5	所管課	危機管理課

質問事項	避難場所における中学生の活動について
具体的な内容 (質問取り事項)	中学生が避難場所のできる具体的な活動をパンフレットで示す。 (避難訓練などでは、中学生は避難場所に避難するだけ。中学生は避難所で活動したくても、何が手伝えるのかわからない。)

【市長答弁】

次に、よねくら米倉議員のご質問にお答えします。

災害が起きた時に、避難所等において中学生の活動が見えにくい。そんなとき、活動の目安となるパンフレットなどの作成についてご提案をいただきました。

皆さんが、熊本地震による避難所の報道を目にされて、避難生活において「自分たちに何ができるのか」という課題に取り組みされたことは、素晴らしいことであり、また、私共にとっても大変ありがたく、感謝するものです。

東日本大震災では、中学生が近所の保育園児を背負ったり、ベビーカーを押したりして津波から逃げたそうです。また、避難生活においては、避難場所の清掃や炊き出しの手伝い、物資の搬入などにも手を貸していたそうです。

中学生とはいえ、地域の一員として、地域を支える頼もしい存在となっただけでありますよう、お願いいたします。

【中学生議会 市長答弁様式1】安全・安心・快適なまち③

質問区分	中学生議会	議員名	さいとう 齊藤 春樹 議員
発言順(通し番号)	NO: 6	所管課・室名	地域づくり課

質問安全・安心・快適なまち事項	交通安全について
具体的な提言	市民のアイデアを取り入れた交通安全グッズを開発し配布してほしい

【市長答弁】

最後に、さいとう 齊藤 議員のご質問にお答えします。

交通安全グッズを活用した交通安全対策についてのご質問ですが、安曇野市におきましては、昨年・平成28年、交通事故発生件数は446件で前年に比べ12件増え、死者数は6人で5人増え、負傷者数は575人で6人が増えてしまいました。

このような悲惨な交通事故を防止するためには、安曇野市といたしましても、関係機関、団体等と連携した交通事故防止対策に努めるとともに、市民一人ひとりが、正しい交通マナーとルールを守る意識の高揚が必要であると考えております。

市民の皆さんのアイデアを取り入れた交通安全グッズを開発してほしいという大切なご提案をいただきました。

市では、交通安全グッズなどを活用した交通安全対策につきましては、街頭啓発活動や家庭訪問等の際に意識を高めていただく交通安全用品として各種の啓発物品のほか、車のライトに反射する夜光反射材やLEDライト等の自ら光る反射材の配布に力を入れております。

このような交通安全グッズの有効性、必要性をご説明し、実際に使い方を紹介して活用をお願いしているところです。

市といたしましても、まずは、既製品を利用させていただきますが、今後市民の皆さんの利用し易い効果的な交通安全用品の活用を研究して参ります。

また、あらゆる機会を捉えた広報啓発活動や家庭訪問等による交通指導など、きめ細かな交通安全活動への取り組みと交通安全教育の普及浸透に努めて参りますので、斉藤議員からも是非、交通ルールやマナーを守るよう、生徒の皆さんに呼びかけていただき、安全・安心なまちづくりにご協力をいただきたいと思っております。

安全・安心・快適なまちグループの、詳しい内容については、担当部長よりお答えします。

【中学生議会 部長答弁様式2】安全・安心・快適なまち①

質 問 区 分	中学生議会	議員名	いしい みお 石井 滢 議員
発言順(通し番号)	NO : 4	所管課	危機管理課

質 問 事 項	災害時への備えについて
具 体 的 な 内 容 (質問取り事項)	防災パンフレットの作成と防災ポスターコンテストの開催 (消防・災害への備えに力を入れているが、実際に市民に広まっているとは言い難い。市民への呼びかけが不十分だと考え、提案します。)

【部長答弁】

いしい
石井議員のご質問にお答えします。

わたくしからは、議員ご提案の防災パンフレットとポスターコンクールについてご説明させていただきます。

一つ目のご提案ですが、防災マップを地域ごとに細分化して、避難場所など地域に特化した情報を掲載し、学校などへも配布したほうが良いというものです。

市で作成している「防災マップ」は、1冊の中に、洪水、土砂災害、地震などの被害状況を想定した地図や避難場所等の位置、家庭内における「安全対策」の方法や、その時とるべき「行動」など、すべてを掲載しており、かえって判りづらいものになっているのかもしれませんが。

しかし、「地区ごとの防災マップ」は、自主防災組織においても取り組んでおり、自身の地区内の避難場所や消火栓の位置などを掲載して作成し、地区内に配布、活用しているところもございます。

次回の、防災マップ作製の折には、地域ごとの細分化であったり、記載する情報の追加や表示する言語など、費用面も含めて可能かどうか検討させていただきます。

二つ目のご提案です。

本市の主催で「防災をテーマとしたポスターの作成とコンクールを行い、選ばれたポスターを印刷・掲示して防災意識を高めてはどうか。」ということかと思います。

皆さんは、すでに「防災」をテーマとした授業も経験され、このような提案に至ったのかと思います。

ポスターの作成と掲示について実現できれば、防災意識を高めるとても良いツールとなることかと思います。

実施できるかは、先生方とお話しさせていただき、可能性を探ってみたいと思います。

また、皆さんは、地域の一員として避難訓練等を一緒に行う中で、このような積極的な考え方が養われたのかと思います。

今後も、ぜひ、地域の皆さんと連携して、防災に係わる活動に取り組んでいただければ幸いです。

【中学生議会 部長答弁様式2】安全・安心・快適なまち②

質問区分	中学生議会	議員名	よねくら 米倉 遥 議員
発言順(通し番号)	NO: 5	所管課	危機管理課

質問事項	避難場所における中学生の活動について
具体的な内容 (質問取り事項)	中学生が避難場所のできる具体的な活動をパンフレットで示す。 (避難訓練などでは、中学生は避難場所に避難するだけ。中学生は避難所で活動したくても、何が手伝えるのかわからない。)

【部長答弁】

よねくら
米倉議員のご質問にお答えします。

わたくしからは、「避難所の運営」についてご説明させていただきます。

市でも、避難生活を経験された皆様の体験に触れるたびに、「避難所の運営」には、避難された方たちによる自主的な運営がないと成り立たないことが分かっています。

避難所の運営は、避難者、施設管理者、ボランティアが協力し合い、運営することが適当と考えます。

学校は、そのほとんどが避難所になりうることから、中学生の皆さんには、「避難者」となる場合もありますし、授業で使っていることから校舎にも詳しく、ボランティアとして参加すれば、避難所の運営には、強力な手助けとなることが想像できます。

ぜひとも、避難生活を支える活動への参加をよろしく願いいたします。

また、「具体的な活動内容のパンフレットができないか」ということですが、現在、作成中の「避難所開設・運営ガイドライン」に、ボランティアとの連携する項目として、お示しできればと考えております。「地域の一員として皆さんができること」を考え、また、「助けられる人」から「助ける人」へと変わるためにぜひとも活用ください。

【中学生議会 部長答弁様式1】安全・安心・快適なまち③

質 問 区 分	中学生議会	議 員 名	さいとう はるき 齊藤 春樹議員
発言順(通し番号)	NO: 6	所管課・室名	地域づくり課

質 問 事 項	交通安全について
具 体 的 な 提 言	市民のアイデアを取り入れた交通安全グッズを開発し配布してほしい

【部長答弁】

さいとう
齊藤議員のご質問にお答えします。

交通安全意識を高めるための交通安全グッズの活用のご提案ですが、齊藤議員自身が、交通事故でけがをする人、傷つく人がいることを悲しく思い、事故を減らそうと友達、家族を思う優しさを持って学校生活を送られていることに感銘を受けました。

改めましてご指導くださる先生方をはじめ、保護者の方々に感謝申し上げます。

齊藤議員のご質問にありましたように、まずは市民一人ひとりが意識を高め、交通事故を起こさないための取り組みが必要であると考えております。

そのため、市では、春・夏・秋・冬それぞれの交通安全運動や街頭啓発活動などで、車などのライトに反射して光る反射材やLEDライトをお配りしています。この反射材は、靴、衣服、カバン、杖などに付けるタイプやタスキやバンドとして身に着けるものなど、利用方法に応じた各種の反射材用品等を配布、紹介し、その利用をお願いしております。

また、身に付けて活用することの効果を知っていただくため、小中学校や高齢者の交通安全教室においても、「車のドライバー等から見えることが安全につながる」ということを伝えています。

齊藤議員から「交通安全グッズ開発のアイデア募集」についてご提案をいただきました。今後、反射材やライト等の効果をより高め、より多くの市民の皆さんが利用し易い交通安全用品の研究をして参りたいと思います。齊藤議員も良いアイデアがありましたら、ご提案をお願いします。

また、自分の命は自分で守ること、命の尊さについて家族で話し合う機会を持ち、家族みんなが交通事故に遭わない、起こさないよう思いやりの気持ちを大切にして交通安全に努めていただきたいと思います。

中学生議員の皆さんも学校やホームルームで交通ルールやマナーについて気付いたことを友達とも話し合っていたいただき、中学生議会を代表するリーダーとして安全・安心なまちづくりに一緒に取り組んでいただきたいと思います。

貴重なご提案ありがとうございました。